



Well-Being人材育成プログラム（OASIS） 市長報告会

2023年10月23日

Digital Smart City HAMAMATSU



浜松市

【チームA（地域とのつながり）】

財政課

吉田 徳安

市民協働・地域政策課

竹本 貴宣

天竜区・区振興課

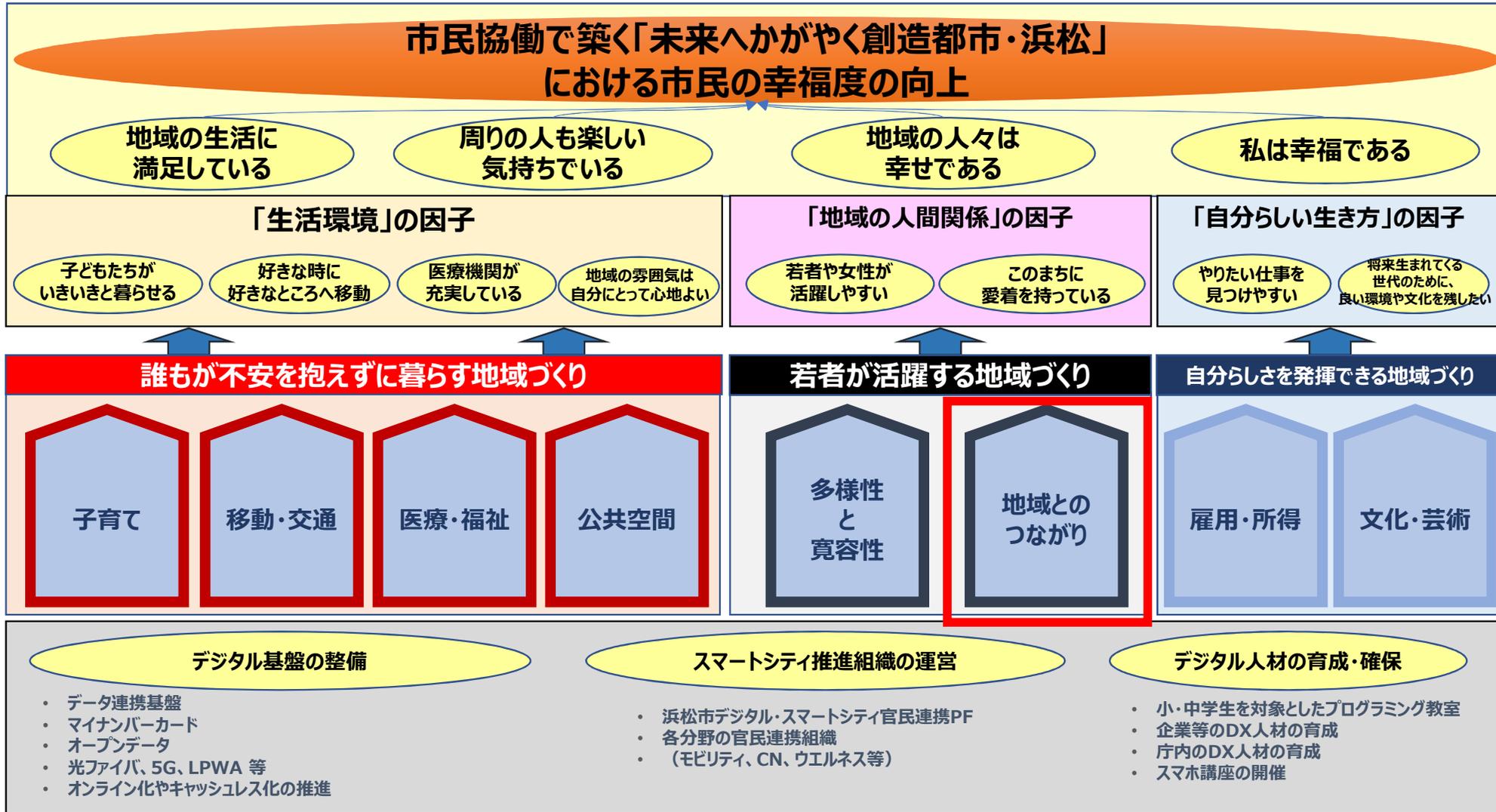
内山 浩治



ウェルビーイング・インパクトの視点

政策の視点

デジタルと人の共創基盤の視点

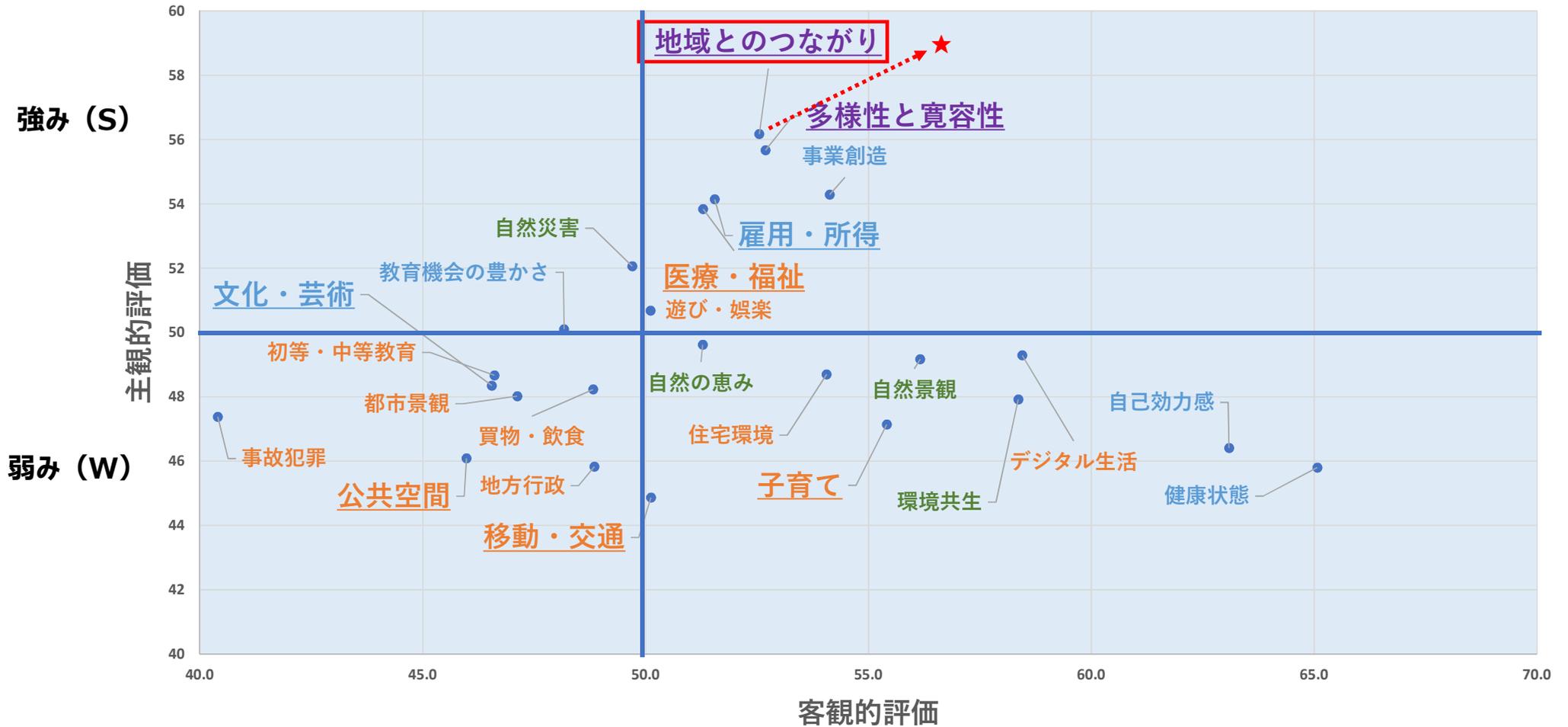


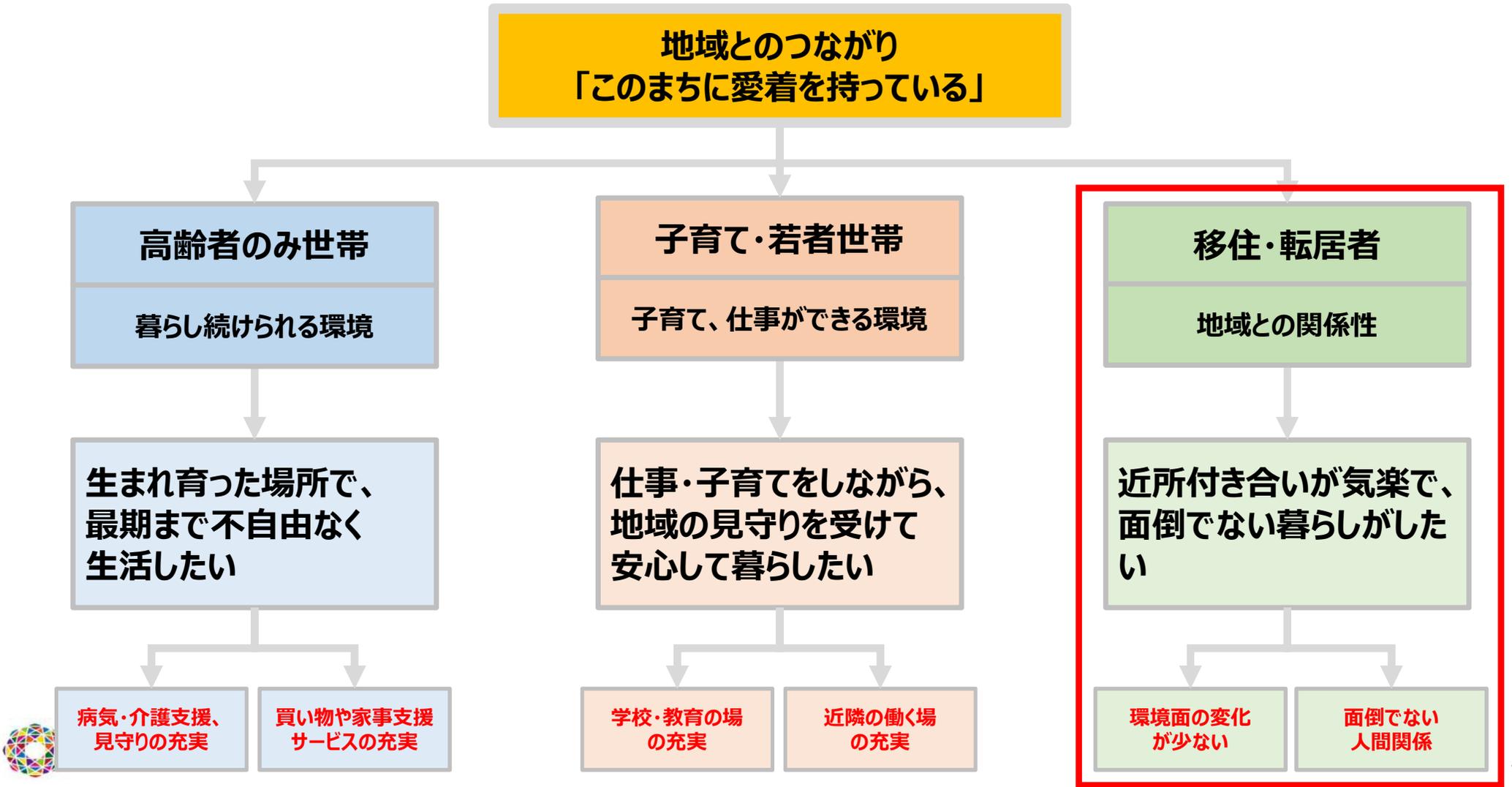
主観的評価と客観的評価のSWOT分析

チームA

脅威 (T)

機会 (O)





【地域とのつながり】このまちに愛着を持っている 【ペルソナ】中山間地域への移住・転居者（20～40代の子育て世代）

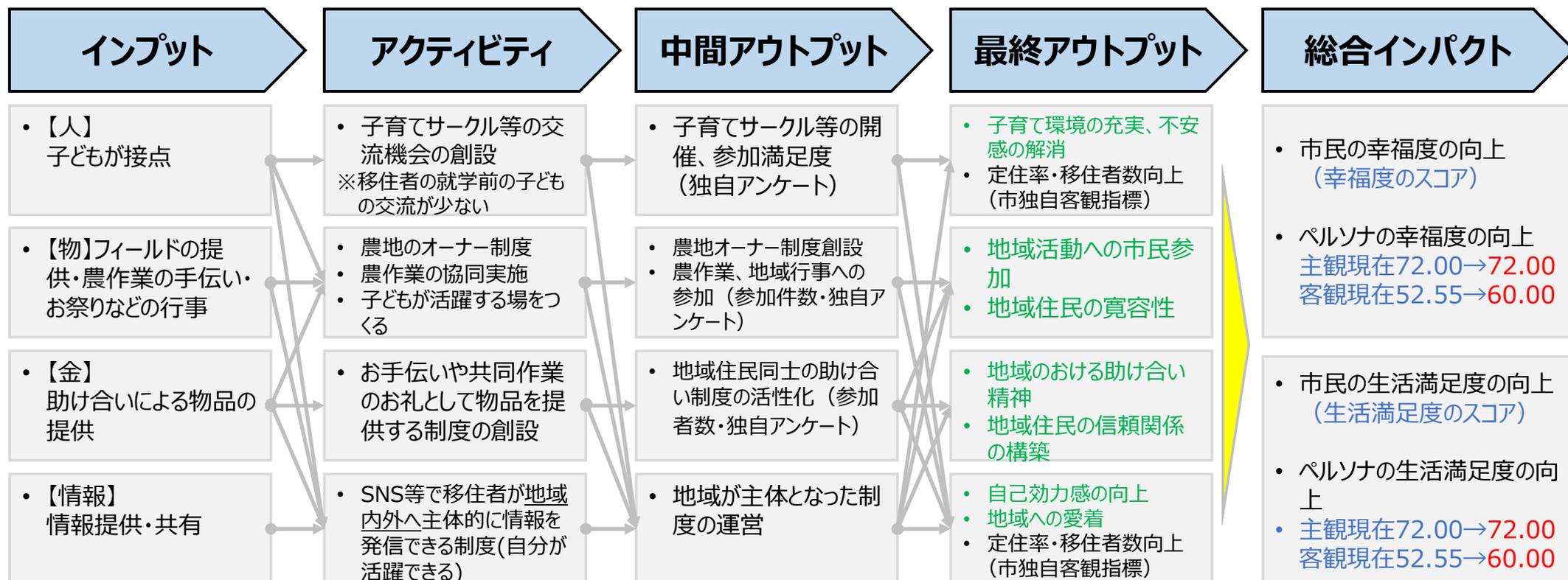
チームA

現状

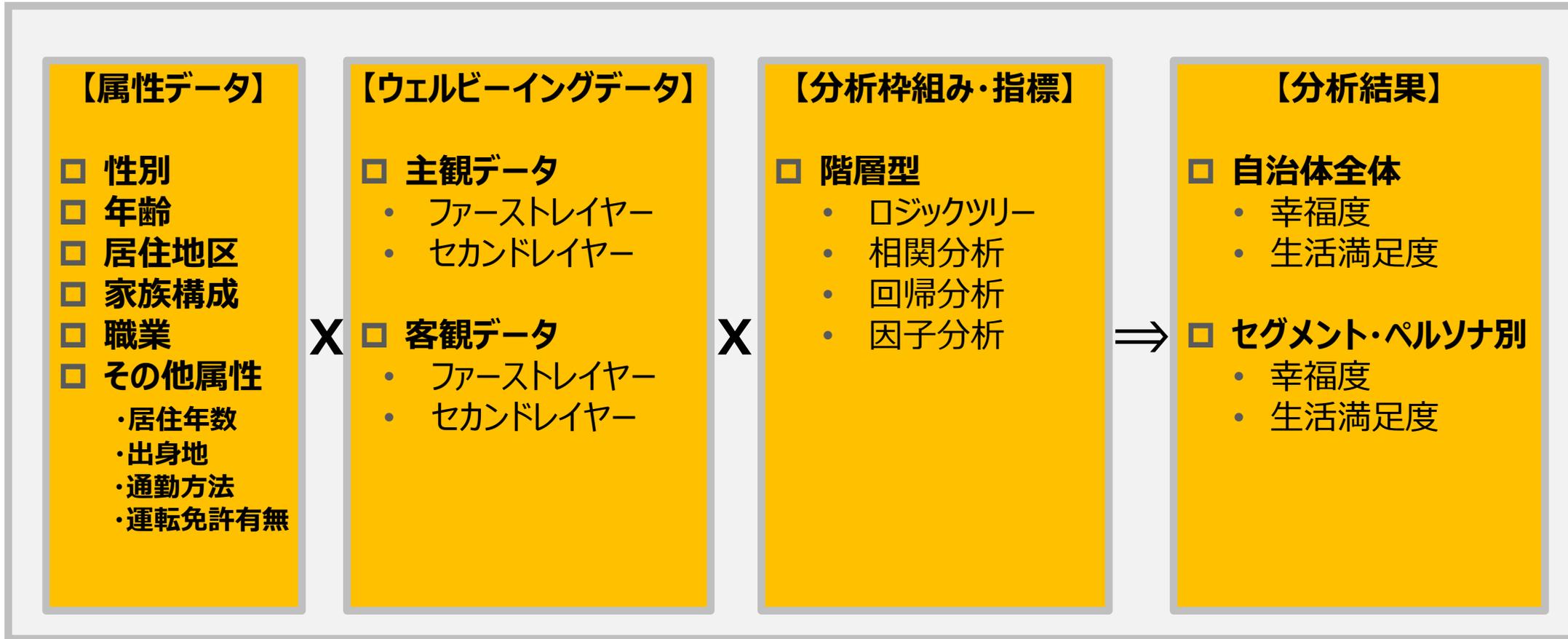
- お互いに遠慮があり、相談・信頼できる人が少ない
- 地域活動への負担感が大きい
(近所付き合いが気楽で、面倒でない暮らしがしたい)

将来像

- 地域の人との信頼関係があり、お互いが気持ちよく、安心して生活できる状態



※緑文字のアウトプットはSCIアンケートにより計測



【イメージ図： ウェルビーイング指標活用プロセス】

【市民参加】

- 市民ワークショップ
- 市民アンケート
- ローカルコープ
- ウェルビーイングアワード

X

【人材育成】

- 庁内研修
(管理職・中堅職員)
- コミュニティ担当職員への意識づけ
- 地域における推進役の育成

X

【報告・モニタリング】

- 市民向けダッシュボード
- 推進本部会議 (庁内)
- 年次報告

【市独自の質問項目として追加すべきもの】

- 「地域との関係性は、面倒でないと感じている」
- 「地域で、自分の技能が活かしている」
- 子育てサークル等への参加満足度

【市独自の客観指標として追加すべきもの】

- 定住率
- 移住者数
- 子育てサークル等参加者数
- 農地オーナー制度実施件数
- 地域行事等への参加件数

【アペンディックス資料】

- エグゼクティブサマリー
- 地域幸福度（Well-Being）指標 ダッシュボード 浜松市の特徴

【浜松市が市民のウェルビーイング向上の観点から目指すべき都市像】 統合マップ

- 国土縮図型都市として、多種多様な地域特性を持つ土地に住む市民がそれぞれに利便、不便を感じながらも、その土地に住む意味や意義が見いだせるまちが理想と考えた。
- なかでも、他地域よりも人口減少や人口構成比率が大きな問題となっている中山間地域でよりよく暮らせることが全体のウェルビーイング向上に向けて最初に取り組むべき課題。
- **人口減少が進むなか、中山間地の課題は、将来、浜松市全域の課題ともなり得るため、中山間地の課題を解決することで、浜松市全体のウェルビーイングの向上につなげる。**

【選択した8つの政策領域について】 統合マップ

- 本市は国土縮図型都市で、市域が広大あるが故に、市全体の中心化傾向となるアンケートでは、各区域や地域の課題と本質が見えにくくなる。
- **選択した8つの政策領域は中山間地域で顕著となる部分であり、人口減少が進んだ場合には、市民が幸せに暮らすうえで全市的な課題となるもの。**
- まず、「子育て」「移動・交通」「地域とのつながり」など、豊かに暮らすうえで重要なものを選択。

【想定したペルソナの説明】 ペルソナ・ロジックツリー

- 少子高齢化、老々介護などが社会問題となるように、**社会を成り立たせるには一定程度バランスのとれた年齢構成が必要。**
- 市としても移住、田舎暮らしを推進しているところであり、**いかにして定住に結び付けるかが重要である。**
- 人数的には少ないと思われるが、今回想定したペルソナのうち、「中山間地域への移住・転居者（20～40代の子育て世代）」を選定した。

【ロジックモデルの説明】 ロジックモデル

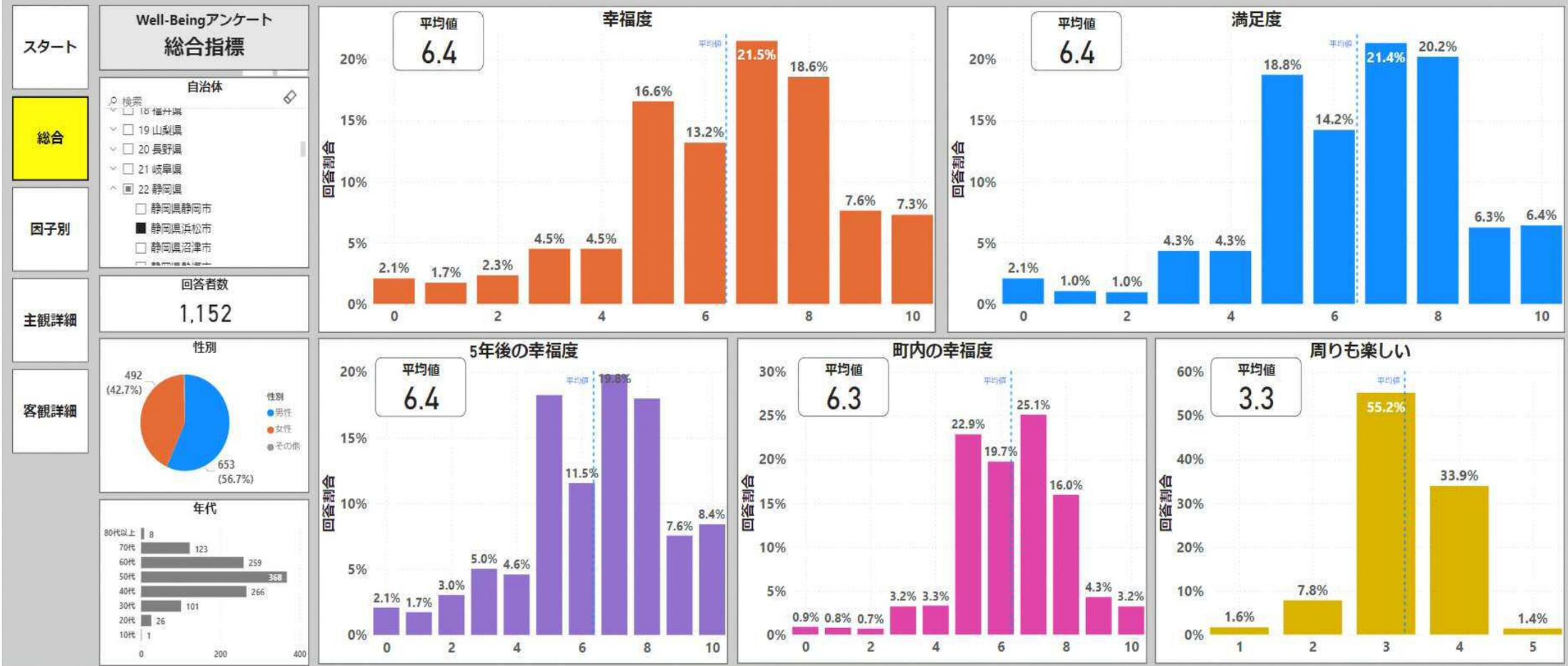
- 将来像として、移住者が「**地域の人との信頼関係があり、お互いが気持ちよく、安心して生活できる状態**」を目指す。
- 今回のロジックモデルは、**ハード面ではなく、地域住民との信頼関係やつながりに着目している。**

【浜松市幸福度指標システムの説明】 浜松市幸福度指標システム

- 活用プロセスにおける人材育成については、**地域における取組の推進役の育成が重要。**
- 市独自の質問項目として、現状の課題を確認するため「**地域との関係性は面倒でないと感じている**」を追加。
- 国土縮図型といわれる本市においては、**少数派の意見も汲み取れるものにしたい。**

添付資料（ダッシュボード）

チームA



【総合】 全体

Well-Beingアンケート 因子別

スタート

総合

因子別

主観詳細

客観詳細

自治体

検索

- 01 北海道
- 02 青森県
- 03 岩手県
- 04 宮城県
- 05 秋田県
- 06 山形県
- 07 福島県
- 08 茨城県
- 09 栃木県
- 10 群馬県
- 11 埼玉県
- 12 千葉県

回答者数 **1,152**

性別

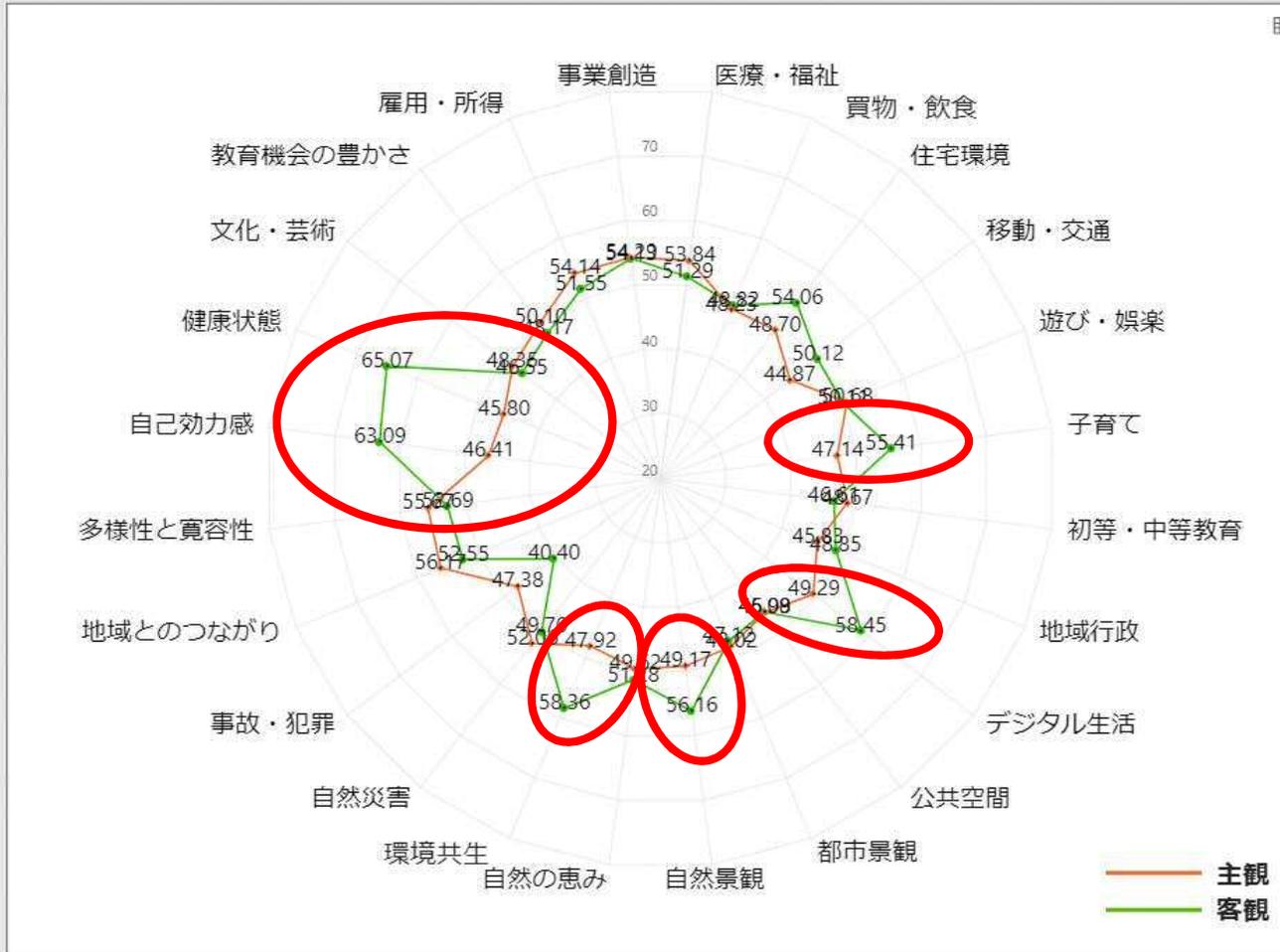
492 (42.7%) 男性

653 (56.7%) 女性

その他

年代

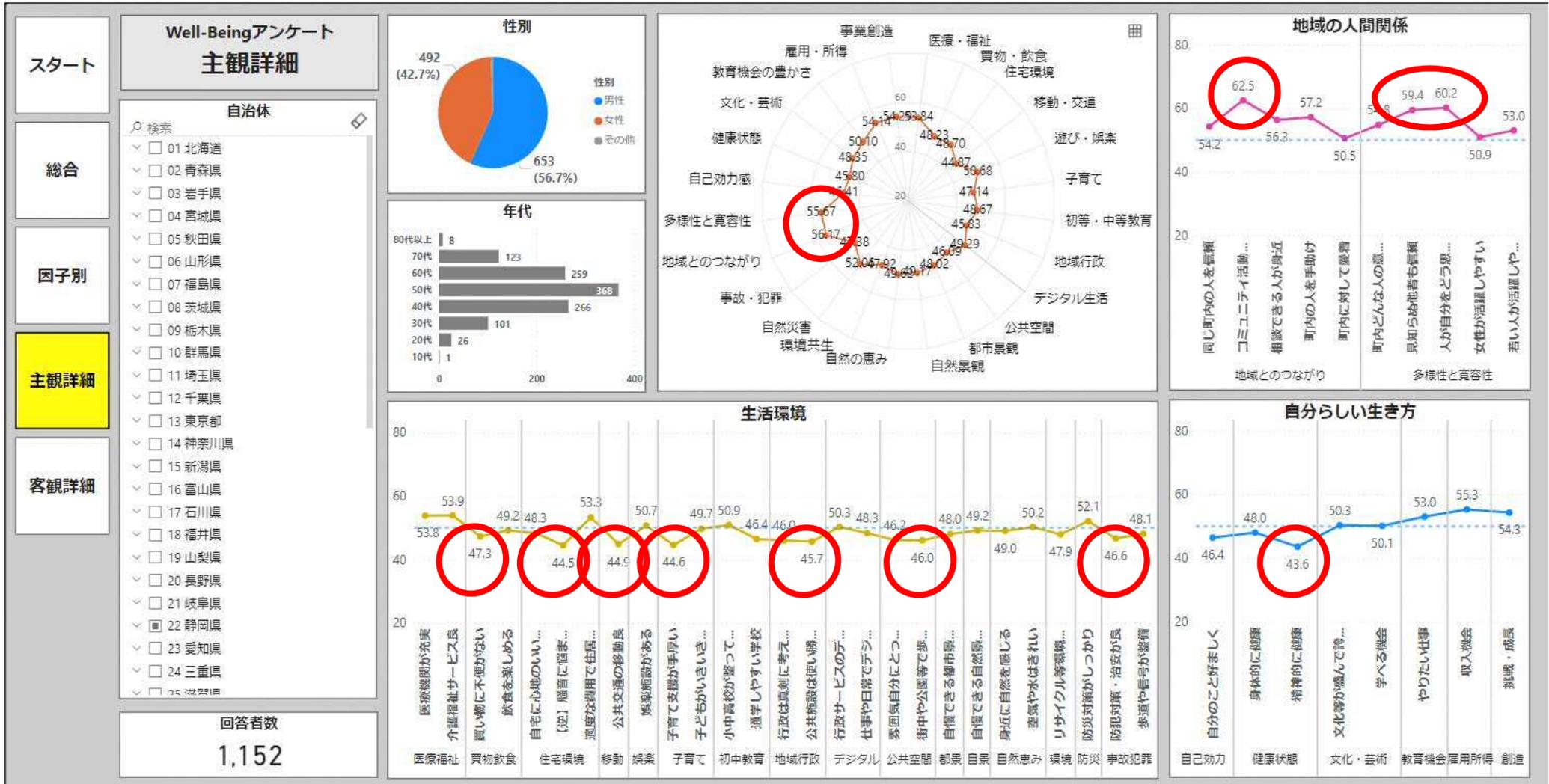
80代以上	8
70代	123
60代	259
50代	368
40代	266
30代	101
20代	26
10代	1



因子	主観	客観
医療・福祉	53.84	51.29
買物・飲食	48.23	48.82
住宅環境	48.70	54.06
移動・交通	44.87	50.12
遊び・娯楽	50.68	50.11
子育て	47.14	55.41
初等・中等教育	48.67	46.61
地域行政	45.83	48.85
デジタル生活	49.29	58.45
公共空間	46.09	45.98
都市景観	48.02	47.12
自然景観	49.17	56.16
自然の恵み	49.62	51.28
環境共生	47.92	58.36
自然災害	52.06	49.70
事故・犯罪	47.38	40.40
地域とのつながり	56.17	52.55
多様性と寛容性	55.67	52.69
自己効力感	46.41	63.09
健康状態	45.80	65.07
文化・芸術	48.35	46.55
教育機会の豊かさ	50.10	48.17
雇用・所得	54.14	51.55
事業創造	54.29	54.13

<客観データに関する注意>
 本ツールの仕様上、**客観データは単一の基礎自治体を選択した時のみ正確な値が表示されます。**左上の自治体パネルにて、何も選択していない状態 (=全ての自治体を選んでいる状態と同じ) や都道府県を選んでる状態も同様に、客観データに限り不正確な値が表示されます。都道府県単位の正確な値を知りたい場合は都道府県版のダッシュボードをご利用ください。

【因子別】全体



【主観詳細】 全体

